

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
姫路医療専門学校	平成30年3月26日	小川 恭一	〒670-0927 兵庫県姫路市駅前町27番2 (電話) 079-226-8115																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人神戸滋慶学園	平成4年1月13日	理事長 覚野 博夫	〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町2丁目5番1号 (電話) 078-221-8026																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
医療	医療専門課程	作業療法士科	令和2年度文部科学省 認定	-																											
学科の目的	豊かな人間性・コミュニケーション力・トータルマネジメント力を身につけた、病院はもちろんのこと、地域でも活躍することができる作業療法士を養成します。地域移行が進む中で必要とされる、医療人だけでなく地域のさまざまな方と円滑にコミュニケーションを行う能力と、多面的に対象者を捉えることができるトータルマネジメント力を身につけ、対象者が必要とする支援を実践できる豊かな人間性を身につけた作業療法士を養成します。																														
認定年月日	令和 年 月 日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3年	昼間	3375時間	735	1200	1440	-	-																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
120人	115人	0人	7人	34人	41人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験は各学期ごと又は科目終了時に行い、試験の成績は科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格点とする。																											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月10日～8月18日 ■冬季:12月21日～1月5日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	本校所定の課程を修了し、出席日数を満たし、試験に合格した者。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 3日以上欠席が続いた場合には、担任が保護者に連絡し、必要であればカウンセラーにつなぎ原因を把握した上で、適切な対応をしている。		課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 総合病院、リハビリテーション病院等 ■就職指導内容 就活セミナー、対策講座で、職域・病院等の理解から就職活動の仕方、履歴書作成、面接指導を行い、個別指導も行っている。 ■卒業生数 30 人 ■就職希望者数 25 人 ■就職者数 25 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.3 % ■その他 ・進学者 0人 (令和 2 年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>30人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士	②	30人	23人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
作業療法士	②	30人	23人																												
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 令和2年4月1日時点において、在学者109名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者101名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の本理由 経済的理由、進路変更他 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制で、定期、不規則の個人面談を行っている。また学生ひとり一人の状況変化に対し、担任だけでなく、チームで対応している。又、心のケアについては学生相談室を設置し、個別面談を行っている。経済的な理由により学業の継続が困難な学生に対しては、専門の教職員が個別に面談し、日本学生支援機構奨学金等適切な情報提供を行っている。進路変更委員会を設置しており、学生が進路変更を希望した場合、ひとり一人の学生にとって最適な進路変更を提案するようにしている。		■中退率 7 %																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 在校生援助奨学金 ■専門実践教育訓練給付: ・非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	https://www.hmc.ac.jp/gakka/ot																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

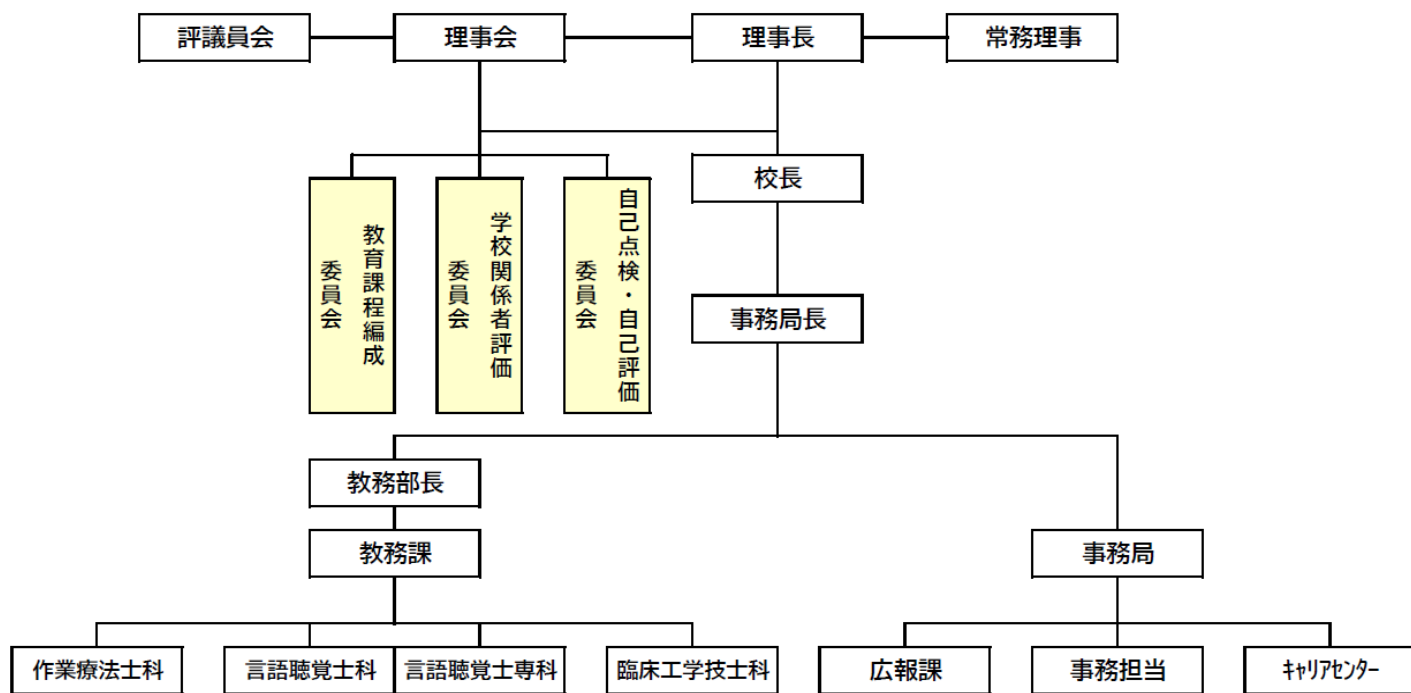
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 学科の養成目的(養成する職業人の将来像、必要となる知識・技術)の設定、教育目標(学生が卒業時に身につけておくべき能力)の到達のために、教育編成委員会での意見を活かし、カリキュラムを見直す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 本校の教育編成委員会は理事会のもとに設置しており、委員長は、委員会で出された意見を集約し理事会に報告している。カリキュラム変更等は、評議員会、理事会で決議し教育内容に反映している。

学校法人神戸滋慶学園
 姫路医療専門学校 組織図



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 副会長	令和2年12月1日～令和4年3月31日	①
巢守 悟	医療法人仁寿会 石川病院 リハビリテーション部 室長	令和2年12月1日～令和4年3月31日	③
西本 寛	公立神崎総合病院 ケアステーション神崎 所長	令和2年12月1日～令和4年3月31日	③

<p>※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>		
<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回(6月、2月)</p> <p>(開催日時(実績)) 第1回 令和2年12月23日～28日 第2回 令和3年2月11日 14:30～16:00 第1回 令和3年6月13日 15:00～16:30</p>		
<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 作業療法士として必要な知識や実践能力を身に付けるため、臨床現場において必要となる認知領域(知識面)、精神運動領域(技術面)、そして情意領域(態度面)、医療における作業療法の重要性について現場からの意見に基づき、カリキュラム運営に反映している。特に「見学実習」「地域実習」「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」において、指定規則による実習内容の変更と医療業界の変遷に柔軟に対応し、チーム医療を構成する一員としての責任と役割を学生が自覚できるように活用している。 委員から、より深い学びを学生が主体的にできるようになるために、「作業療法に愛着を持ってもらう取り組みを」「作業療法の楽しさを知る取り組みを」との提案があった。全教員が自身の作業療法士としての臨床での経験を話す機会を「プロフェッショナルへの道(授業名)」に取り入れ、他の授業の中でも作業療法の楽しみややりがいを感じてもらえるよう授業の工夫をしている。</p>		
<p>2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>		
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校は、業界に直結した職業人教育を行うため、業界と連携し、即戦力となる人材を育成することを教育の一つの目的としている。そのため、業界の現場(企業等)の現職の作業療法士等を講師に委嘱し授業を実施し、また業界の現場(企業等)において見学実習、臨床実習を行う。</p>		
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記</p> <p>理学療法士作業療法士学校養成施設 指定規則、日本作業療法士協会「作業療法臨床実習指針」に基づき、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供する機会とする。作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるものである。臨床実習を通じて学生は認知領域(知識面)、精神運動領域(技術面)、そして情意領域(態度面)にわたる調和のとれた学習をすることが望まれる。学習成果目標として、認知領域として学校で学んだ基礎知識を再認識するとともに、臨床を通じて新しい知識や臨床的な知識を習得する。精神運動領域では直接対象者に接することによって面接・評価・治療の技術を身につける。そして、それらの土台であり支えとなる情意領域として医療専門職に恥じない言動・態度の獲得と興味や熱意を養わせることである。学習成果の評価については実習指導者報告書、実習後の振り返り、報告会、実習前後のOSCE(客観的臨床能力試験)によって認定を行う。</p>		
<p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p>		
科目名	科目概要	連携企業等
地域作業療法学 ※教育課程変更(令和2年度)以前の科目	地域作業療法の必要性と現状、その実際を学び、具体的な展開方法について理解できる。また、作業療法士がどのような場所で地域リハビリテーションを実施しているのかや、留意点なども講義、演習する。	公立神崎総合病院ケアステーションかんざき
作業療法特論Ⅱ ※教育課程変更(令和2年度)以前の科目	作業療法士が働く場は種々多様でさまざまな領域がある。すべての場所に学外での臨床実習として実施することは困難極まりない。また、実習地として法律上許可されていないようなところもある。そこで、この科目内で沢山の領域で働く作業療法士を講師として招聘し、それぞれの現場での実践や、作業療法士自らが行っていることを模擬的に体験することができるよう実際の臨床現場で行われている作業療法の教授により、演習を通して理解できる。	株式会社ウィズ
職業関連技術論 ※教育課程変更(令和2年度)以前の科目	対象者が病気やけがによりさまざまな障害をおうことになる。すべての障害が克服できるようにはならないことが多く、障害とうまく付き合いながら日常生活や社会生活を営まなくてはならない。社会生活を送るうえで人はなにかしらの仕事に就くことになるが、障害を持って社会生活を送ることは困難となることのほうが多い。そこで、障害を持つ人が職業につくにあたっての職業評価・援助の方法や職業支援に必要な知識を身につける。	公立神崎総合病院ケアステーションかんざき

見学実習	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。見学実習では見学と体験を通じて作業療法士の役割と基本的態度、他職種との役割を学ぶ。また、専門職として責任のある態度や行動がとれる。	IHI播磨病院、石井病院、甲南加古川病院、神野病院、高砂西部病院、ときわ病院、西江井島病院、野瀬病院、服部病院、兵庫県立姫路循環器病センターほか 総数16施設
臨床実習Ⅱ ※教育課程変更(令和2年度)以前の科目	臨床実習とは、学内で習得した知識と技術を臨床実習指導者の下で実際に対象者に応用する機会を学生に提供するものである。したがって、作業療法に関する直接的体験を学生に与える学習過程であり、理論と実践の接点となるのが臨床実習である。臨床実習Ⅲでは作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験、また作業療法における臨床思考過程を体験し、身に付ける。	揖保川病院、遠州病院、加古川中央市民病院、高岡病院、龍野中央病院、土井病院、西宮協立リハビリテーション病院、姫路北病院、播磨大塩病院、みきやまりリハビリテーション病院ほか 総数23施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 学園の定める教員研修規定において教員の授業内容、教育技法の改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的に定めている。また、教員の専門知識、技術力の向上のために、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて教員の研修計画を策定し、専門の学会や業界の研修会に積極的に参加している。
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「基礎から学ぶ子ども(地域)OT講座」(連携企業等:橋本財団助成) 期間:令和2年10月18日、11月1日、12月6日、令和3年1月31日(日) 対象:教員(作業療法士) 内容:作業療法士が実施している児童クラブへの関わりの歩みと実際を学ぶ5回にわたっての講座。コンサルテーションの内容や、CO-OP、子供へのかかわり方などを事例を含めて教えていただいた。 研修名「2020年度介護・福祉従事者キャリアアップ研修」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和2年11月15日(日) 対象:教員(作業療法士) 内容:Zoomシステムによるweb研修について 研修名「第26回兵庫県作業療法学会」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和2年12月6日(日)～12月26日(土)(オンライン開催) 対象:教員(作業療法士) 内容:「作業療法士の幅を広げる」をテーマとして教育講演、研究発表が行われた。 研修名「兵庫OT人材育成研修Next」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和2年12月19日(土) 対象:教員(臨床経験5年以上の作業療法士) 内容:事例を通して対象者にあったプログラムを企画する。 研修名「スクールAMPSオンライン研修会」(連携企業等:日本AMPS研究会) 期間:令和2年12月27日(日) 対象:教員(作業療法士) 内容:観察評価のAMPSで子供に特化したスクールAMPSの評価を簡単に体験する研修会。はさみで切る動作から分かることを映像を見ながら要素に分類する練習をさせていただいた。 研修名「2020年度ひょうご学校作業療法士育成セミナー」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和3年1月23日(土) 対象:教員(作業療法士) 内容:兵庫県作業療法士会での小学校や児童クラブへのコンサルテーションについての現在の状況と、実際の子供への介入内容を説明していただいた。 研修名「明日の現場で役に立つ!肩関節の機能解剖、疾患別のアプローチとは?」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和3年2月7日(日) 対象:教員(作業療法士) 内容:肩の動きにかかわる関節、靭帯などを解剖学的、運動学的な内容と、実際の患者さんに実施するOTについても説明していただいた。 研修名「脳画像の見方」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和3年2月13日(土) 対象:教員(作業療法士) 内容:MRIとCTの違いや、脳出血、脳梗塞など画像の見かたをたくさんの画像を提示していただき、脳の部位などもわかりやすく説明していただいた。 研修名「発達障害領域での作業療法の介入について(就学期について)」(連携企業等:兵庫県作業療法士会) 期間:令和3年2月19日(金) 対象:教員(作業療法士) 内容:学童期の作業療法士の介入についての概要と、書字のシーティング、睡眠に関することを説明していただいた。 研修名「矯正施設の入所者等に対する作業療法研修会」(連携企業等:矯正施設の入所者等に対する社会復帰に向けた適切な関わりを考える会) 期間:令和3年2月27日(土) 対象:教員(矯正分野に携わる専門職、矯正職員など) 内容:刑事施設における作業療法士の実践報告と今後の可能性について。

研修名「シナプソロジー養成研修」(連携企業等:シナプソロジー研究所)
 期間:令和3年3月7日(日)13日(土) 対象:教員(シナプソロジーのインストラクターを取得したい人)
 内容:シナプソロジーの理論、実技研修の後、認定試験あり。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「2020年度国家試験対策研修会」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和2年6月3日(水) 対象:教職員
 内容:昨年度の国家試験の振り返りと近年の入学者の傾向から見る国家試験対策の組み立て方(web配信)

研修名「個人情報取扱従事者資格アカデミック講座」(連携企業等:一般社団法人日本プライバシー認証機構(JPAC))
 期間:令和2年11月17日(火) 対象:教職員
 内容:個人情報保護について(web配信)

研修名「2020年度滋慶教育科学学会」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和2年12月8日(火) 対象:教職員
 内容:産学連携教育と中途退学者ゼロを目指した学校、学科、クラス運営について(web配信)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第41回近畿作業療法学会」(連携企業等:近畿作業療法士連絡協議会)
 期間:令和3年6月6日(日) 対象:教職員
 内容:「ダイバーシティ~広げよう自分の視野、挑戦しよう変化を求めて、疑おうこれまでの自分」がテーマの講演・研究発表

研修名「第3回矯正施設の入所者等に対する全国作業療法研修会」(連携企業等:矯正施設の入所者等に対する社会復帰に向けた適切なかわり方を考える会)
 期間:令和3年11月27日(土) 対象:教職員
 内容:司法分野という作業療法士の新たな職域での具体事例を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「FDマイクロレベル クラスマネジメント研修」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和3年5月26日(水)・27日(木) 対象:教員
 内容:クラスマネジメントを学ぶ

研修名「FDマイクロレベル レベルアップ研修」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和3年7月20日(火)・21日(水) 対象:教員
 内容:授業改善を学ぶ

研修名「教職員カウンセリング研修」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和3年10月25日(月)・27日(水)・28日(木)・29日(金) 対象:教職員
 内容:カウンセリングのマインド・スキルを身につけて、学生・保護者に対応できるようにする。

研修名「滋慶教育科学学会」(連携企業等:一般財団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:令和3年12月7日(火) 対象:教職員
 内容:グループ校による教育効果をもたらした研究内容の発表会、事例の共有

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生・保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己評価・自己採点の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生の挨拶などの社会人基礎力の養成やコロナ禍で控えていた地域貢献活動などは皆様からの期待が大きいことを改めて認識した。行っているキャリア教育の指導力の向上、今できる地域貢献活動を考え実施していくこととした。また、コロナ感染拡大の影響で学外臨床実習の期間が短縮され、就職後に影響する可能性があり、在学中のみならず卒業後教育としても学生フォローを行うこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大塚 将史	医療法人芙蓉会 姫路愛和病院	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
福本 直美	臨床工学技士科2年生 保護者	令和2年6月1日～令和4年5月31日	保護者
瀬戸川 孝	兵庫県立松陽高等学校 元校長	令和2年6月1日～令和4年5月31日	高校関係者
田中 種男	姫路市城巽地区 会長	令和2年6月1日～令和4年5月31日	近隣関係者
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 副会長	令和2年6月1日～令和4年5月31日	業界関係者
正木 昭次	一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 理事	令和2年6月1日～令和4年5月31日	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.hmc.ac.jp/about/joho>

公表時期: 令和3年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年作成している事業計画の実行方針では目標(カリキュラムの検証、中途退学防止、国家試験合格、卒業後の離職防止等)を具現化するため、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の委員の方からの意見をもとに、実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、委員会での報告、ホームページを通じて、教育活動その他学校運営に関する情報提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、校長名、所在地、連絡先、教育目標、学校の沿革
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、教科目標、教科課程、各学科のシラバス、進級・卒業の要件
(3) 教職員	教職員数、組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育システム、実習・実技等の取組、就職支援の取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	学年歴、学校行事の取組状況、設備紹介
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費サポート
(8) 学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、貸借対照表、監査報告書、事業報告書、理事名簿
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、学校関係者評価委員会議事録
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.hmc.ac.jp/about/joho>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士科) 令和元年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		心理学	知覚や認知、欲求や感情、学習や思考・記憶などにおける心理の過程を知り、人の内面を見る手がかりとすることができる。	1前	30	2	○			○			○	
2	○		文章表現・読解	日々の授業や臨床実習で課題となるレポートの作成に必要な文章表現や文章読解力を身につける。	1前	30	1		○		○			○	
3	○		医学用語	基礎医学分野(主に解剖学、生理学、運動学)の専門用語について、その読み・書きおよび概念を理解できる。	1後	30	2	○			○			○	
4	○		自然科学	人体の運動および動作の原理である運動学を学ぶための基礎としての力学について理解できる。	1前	15	1	○			○			○	
5	○		統計学演習	研究法を学ぶための基礎である統計処理の基本的な知識を身につけ、その方法を理解できる。	2後	30	1		○		○			○	
6	○		健康科学	専門職として業務の遂行に必要な基礎的な体力を養うとともに、作業療法に必要な体育理論を身につける。	1前	30	1		○			○	○		
7	○		医学概論	医学の歴史や医療技術の進歩、生命倫理・医療倫理等について学び、医療従事者として相応しい心構えを身につける。	1前	15	1	○			○			○	
8	○		情報処理	レポートの作成等に必要なPCの基本的なソフトであるワード、エクセル、パワーポイントについて理解できる。	1後	30	1		○		○			○	
9	○		基礎英語Ⅰ	日常英会話により英語を話す力、聞く力を中心とする基礎英語力を身につけ、英語でのコミュニケーションの基盤を形成できる。	1前	30	1		○		○			○	
10	○		基礎英語Ⅱ	医療の現場で想定される英会話の基礎知識と英語表現を学び、患者とコミュニケーションが取れるような英会話力を身につける。	1後	30	1		○		○			○	
11	○		人間関係論Ⅰ	社会人としてのマナーやコミュニケーションの基本を学び、幅広く円滑なコミュニケーションを図る能力を身につける。	1前	30	1		○		○			○	
12	○		人間関係論Ⅱ	臨床現場で必要になるさまざまな医療関連職種や患者との円滑なコミュニケーションを図る能力を身につける。	1後	30	1		○		○			○	

13	○		解剖生理学 Ⅰ(運動系)	運動を学ぶための基礎となる骨・関節・筋肉の構造・機能について理解できる。	1 通	60	4	○			○	○		
14	○		解剖生理学 Ⅱ(神経系)	神経系(中枢神経系、末梢神経系、感覚器系)の構造・機能について理解できる。	1 前	30	2	○			○	○		
15	○		解剖生理学 Ⅲ(内臓系)	内臓系(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系)の構造・機能について理解できる。	1 前	30	2	○			○	○		
16	○		解剖学実習	人体の構造、特に骨・関節・筋・神経の構造について、標本や模型を使用しての実習を通して理解できる。	1 後	30	1			○	○	○		
17	○		機能解剖学 (運動学)	人体の運動および動作の原理を学び、それらを多面的に理解する。また、関節の構造による運動の特徴等を理解できる。	1 後	60	4	○			○	○		
18	○		バイオメカニクス	運動を通して人の体の構造と機能を理解する。また、人の運動を力学的な観点から理解できる。	1 後	15	1	○			○	○		
19	○		運動学実習	人体の機能と運動との関係を学び、各運動に必要な生理的機能の特徴を実習を通して理解できる。	2 通	60	2			○	○		○	
20	○		老年期学	「老い」とは何か、老年期にみられる身体機能・精神機能の特徴、老年期に起こりやすい疾患等について理解できる。	2 後	15	1	○			○		○	
21	○		人間発達学	人間が生涯にわたり発達する力を持っていることを学び、人間の生涯にわたる身体的、精神的、社会的な発達について理解できる。	1 前	15	1	○			○		○	
22	○		臨床心理学	臨床現場で使用される各種心理検査(知能検査、人格検査、神経心理学的検査)や心理療法について理解できる。	1 後	30	2	○			○		○	
23	○		病理学	代表的な疾病の原因とそれに対する生態の反応、疾病の経過・転帰等について理解できる。	1 後	15	1	○			○		○	
24	○		一般臨床医学	病院や施設でよく見られる内科疾患を中心とした疾患の原因、診断、症状等、疾患の概念について理解できる。	1 後	15	1	○			○			○
25	○		精神医学	統合失調症・気分障害(躁うつ病)等を代表とする精神科疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2 通	60	4	○			○			○
26	○		内科学	代表的な内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2 前	30	2	○			○		○	
27	○		整形外科学	代表的な整形外科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2 前	30	2	○			○		○	

28	○		神経内科学	代表的な神経内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	2	○			○	○		
29	○		小児科学	代表的な小児系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	15	1	○			○		○	
30	○		画像診断学	脳の疾患や整形外科疾患において必要となるCTやMRI画像の読影のため、画像診断の基本的知識を身につける。	2後	15	1	○			○		○	
31	○		リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象となる代表的な疾患や障害に対するリハビリテーション医学の基本的なアプローチの方法を理解できる。	1後	15	1	○			○		○	
32	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や、理念、概念、対象、関連職種等について理解できる。	1前	15	1	○			○		○	
33	○		チーム医療論	医療機関におけるチームのあり方を学び、医療専門職としての自覚とチームの一員として相応しいあり方を身につける。	1前	15	1	○			○		○	
34	○		社会保障制度論(関連法規)	社会保障制度の現状を学び、リハビリテーションに関連する法律や制度(医療、介護、福祉など)について理解できる。	2前	15	1	○			○		○	
35	○		作業療法概論	作業療法の起源と歴史、定義や対象・分野、職業倫理、作業療法実施の流れ等、作業療法の全体を理解できる。	1前	30	1	○			○		○	
36	○		基礎作業学	作業療法の治療手段である作業の持つ意味や作業の捉え方に関する変遷を学び、作業活動と人の関わりや諸機能への影響等を理解できる。	2前	30	1	○			○		○	
37	○		基礎作業学実習	さまざまな作業活動を通して、その心身に及ぼす影響や治療的な効果・作業療法現場での使用方法について理解できる。	1通	60	2				○	○	○	
38	○		作業療法研究法Ⅰ	実践のための科学的基盤を確立する上で重要である研究について、その基本的な考え方や方法について理解できる。	2後	15	1	○			○		○	
39	○		作業療法研究法Ⅱ	作業療法研究法Ⅰを基本として、作業療法における研究についての考え方や実際の研究について学び、理解できる。	3通	15	1	○			○		○	
40	○		作業療法評価学	作業療法における評価の基本的な考え方やその種類、手順、具体的な検査測定法について理解できる。	2前	30	1	○			○		○	
41	○		作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	1後	30	1				○	○	○	
42	○		作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	2前	30	1				○	○	○	

43	○		作業療法評価学実習Ⅲ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	2前	30	1				○	○	○		
44	○		作業療法評価学実習Ⅳ	作業療法における代表的な疾患に対する一連の評価手順を実際に経験することにより身につける。	2後	30	1				○	○	○		
45	○		身体障害治療学Ⅰ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	60	2	○			○		○		
46	○		身体障害治療学Ⅱ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	30	1	○			○		○		
47	○		高次脳機能障害治療学	代表的な高次脳機能障害に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	30	1	○			○		○		
48	○		精神障害治療学Ⅰ	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	1	○			○		○		
49	○		精神障害治療学Ⅱ	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	30	1	○			○		○		
50	○		発達障害治療学	発達障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	1	○			○		○		
51	○		職業関連技術論	障害を持つ人が職業につくにあたっての職業評価・援助の方法や職業支援に必要な知識を身につける。	2前	15	1	○			○		○	○	
52	○		老年期障害治療学	老年期における特徴等の知識を基礎として老年期に多い疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	15	1	○			○		○		
53	○		作業療法技術論演習	義肢や装具の構造と機能および使用目的・方法、自助具の使用目的や作製方法について演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○		○		
54	○		日常生活活動学演習	日常生活活動の評価方法や指導方法を学び、基礎的な知識や実技の方法について演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○		○		
55	○		作業療法治療学演習Ⅰ	観察や面接の知識や技術を臨床現場を模した状況で実践し、実際の現場でも実施できる技術を身につける。	1前	30	1		○		○		○		
56	○		作業療法治療学演習Ⅱ	評価学実習で学んだ評価法を臨床現場を模した状況で実践し、実際の現場でも実施できる技術を身につける。	1後	30	1		○		○		○		
57	○		作業療法治療学演習Ⅲ	身体障害領域における作業療法の技術等を臨床現場を模した状況で実践し、実際の現場でも実施できる技術を身につける。	2前	30	1		○		○		○		

58	○		作業療法治療学演習Ⅳ	精神障害領域における作業療法の技術等を臨床現場を模した状況で実践し、実際の現場でも実施できる技術を身につける。	2後	30	1		○		○		○		
59	○		作業療法治療学演習Ⅴ	老年期障害領域における作業療法の技術等を臨床現場を模した状況で実践し、実際の現場でも実施できる技術を身につける。	3通	30	1		○		○		○		
60	○		作業療法治療学実習Ⅰ	3年次の臨床実習に必要とされる知識や技術を演習を通して実践し、実際の実習で実施できる技術を身につける。	3通	30	1				○		○		
61	○		作業療法治療学実習Ⅱ	3年次の臨床実習に必要とされる知識や技術を演習を通して実践し、実際の実習で実施できる技術を身につける。	3後	30	1				○		○		
62	○		作業療法特論Ⅰ	実際の臨床現場で行われている作業療法を、現場で活躍する作業療法士の教授により、演習を通して理解できる。	3通	30	1		○				○		
63	○		作業療法特論Ⅱ	実際の臨床現場で行われている作業療法を、現場で活躍する作業療法士の教授により、演習を通して理解できる。	3通	30	1		○				○		○
64	○		地域作業療法学	地域作業療法の必要性と現状、その実際を学び、具体的な展開方法について理解できる。	2前	30	1	○					○		○
65	○		福祉住環境論	住宅改修や福祉用具、自助具の基礎知識、それぞれを用いた援助の方法等について理解できる。	2前	15	1	○					○		○
66	○		ケアマネジメント論	介護保険制度の詳細について学び、介護保険におけるケアマネジメントの実際について理解できる。	2後	15	1	○					○		○
67	○		地域作業療法学実習Ⅰ	地域の臨床現場での体験実習を通して、一般的に必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	1後	30	1				○		○		○
68	○		地域作業療法学実習Ⅱ	地域の臨床現場での体験実習を通して、作業療法士として必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	2前	30	1				○		○		○
69	○		臨床実習Ⅰ	作業療法における初期評価の一連の流れ(情報収集、検査測定の実施、評価のまとめ、作業療法計画の作成等)を臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	2後	180	4				○		○		○
70	○		臨床実習Ⅱ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3通	360	8				○		○		○
71	○		臨床実習Ⅲ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3通	360	8				○		○		○
72	○		見学実習	臨床現場で作業療法士が実際に働く場を見学することで、作業療法に対する職業理解を深め、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	1後	45	1				○		○		○

73	○		国際教育	海外の医療情勢、また日本とその相違を学び、国際的な視点や幅広い視野を身につける。	2後	15	1		○	○	○			
74	○		プロフェッショナルへの道Ⅰ	社会人としての基礎力を身につけ、作業療法士を目指す仲間との良好な関係を作る。また、作業療法士としての将来像を明確にできる。	1通	30	1		○	○	○			
75	○		プロフェッショナルへの道Ⅱ	医療人としての倫理観を身につける。また、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	2通	30	1		○	○	○			
76	○		プロフェッショナルへの道Ⅲ	作業療法士としての職業倫理を身につける。また、実習を経て作業療法士としての将来像をより明確化できる。	3通	30	1		○	○	○			
77	○		医療管理学演習	作業療法においても重要となる情報管理について、実際の医療現場におけるその基礎的な事項を学び、理解できる。	2通	30	1		○	○	○			
78	○		臨床実習入門	2年次の臨床実習に必要な基礎医学・臨床医学の基礎知識や評価学、評価学実習で学んだ評価技術を演習を通して身につける。	2後	30	1		○	○	○			
79	○		作業療法総合演習Ⅰ	1年で学ぶ基礎医学の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	1前	30	1		○	○	○			
80	○		作業療法総合演習Ⅱ	作業療法における専門的な評価方法や治療方法を演習を通して総合的に身につける。	1後	30	1		○	○	○			
81	○		作業療法総合演習Ⅲ	1・2年で学ぶ専門基礎分野の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	2前	30	1		○	○	○			
82	○		作業療法総合演習Ⅳ	作業療法における専門的な評価方法や治療方法を演習を通して総合的に身につける。	2後	30	1		○	○	○			
83	○		作業療法総合演習Ⅴ	1～2年で学ぶ専門基礎分野の知識や作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3後	30	1		○	○	○			
84	○		作業療法総合演習Ⅵ	1～3年で学ぶ専門基礎分野の知識を基礎とした作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3通	90	3		○	○	○			
合計						84科目		3285単位時間(123単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校所定の課程を修了し、出席日数をみだし、試験に合格すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法士科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		心理学	知覚や認知、欲求や感情、学習や思考・記憶などにおける心理の過程を知り、人の内面を見る手がかりとすることができる。	1前	30	2	○			○		○		
2	○		文章表現・読解	日々の授業や臨床実習で課題となるレポートの作成に必要な文章表現や文章読解力を身につける。	1前	30	2	○			○		○		
3	○		自然科学	人体の運動および動作の原理である運動学を学ぶための基礎としての力学について理解できる。	1前	15	1	○			○			○	
4	○		健康科学	専門職として業務の遂行に必要な基礎的な体力を養うとともに、作業療法に必要な体育理論を身につける。	1前	30	1		○			○	○		
5	○		医学総論	医学の歴史や医療技術の進歩、生命倫理・医療倫理等について学び、医療従事者として相応しい心構えを身につける。	1前	15	1	○			○			○	
6	○		情報処理	レポートの作成等に必要なPCの基本的なソフトであるワード、エクセルを使用し、文書や表が作成できる。また、基礎的なエクセル統計を理解できる。	1後	30	1		○		○			○	
7	○		基礎英語Ⅰ	英語を話す力、聞く力を中心とする基礎英語力を身につけ、英語でのコミュニケーションの基盤を形成できる。	1前	30	2	○			○			○	
8	○		基礎英語Ⅱ	医療の現場で必要とされる医療英語の語彙力を身につける。また、医療現場で想定される英会話の基礎知識と英語表現について理解できる。	1後	30	2	○			○			○	
9	○		国際教育	海外の医療情勢、また日本とその相違を学び、国際的な視点や幅広い視野を身につける。	2後	15	1	○			○		○	○	
10	○		プロフェッショナルへの道Ⅰ	社会人としての基礎力を身につけ、作業療法士を目指す仲間との良好な関係を作る。また、作業療法士としての将来像を明確にできる。	1通	60	2		○		○			○	
11	○		プロフェッショナルへの道Ⅱ	医療人としての倫理観を身につける。また、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	2通	60	2		○		○			○	
12	○		プロフェッショナルへの道Ⅲ	作業療法士としてのプロフェッショナリズムを身につける。また、実習を経て作業療法士としての将来像をより明確化できる。	3通	60	2		○		○			○	

13	○		人間関係論	社会について学び理解を深める。また、社会人としてのマナーやコミュニケーションの基本を学び、幅広く円滑なコミュニケーションを図る能力の必要性について理解できる。	1前	30	2	○		○		○	
14	○		解剖生理学演習 運動系Ⅰ	運動を学ぶための基礎となる骨・関節の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○	○		○	
15	○		解剖生理学演習 運動系Ⅱ	運動を学ぶための基礎となる筋肉の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○	○		○	
16	○		解剖生理学演習 神経系Ⅰ	神経系（中枢神経系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○	○		○	
17	○		解剖生理学演習 神経系Ⅱ	神経系（末梢神経系、感覚器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○	○		○	
18	○		解剖生理学演習 内臓系Ⅰ	内臓系（循環器系、呼吸器系、消化器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1前	30	1		○	○		○	
19	○		解剖生理学演習 内臓系Ⅱ	内臓系（泌尿器系、内分泌系、生殖器系）の構造・機能について演習を通して理解できる。	1後	30	1		○	○		○	
20	○		基礎運動学	運動に関わる人体の構造、特に骨・関節・筋・神経の機能について理解できる。	1後	30	2	○		○		○	
21	○		運動学演習Ⅰ	人体の運動および動作の原理を学び、それらを多面的に理解する。また、関節の構造による運動の特徴等を理解できる。	1後	30	1		○	○		○	
22	○		運動学演習Ⅱ	運動を通して人の体の構造と機能を理解できる。また、人の運動を力学的な観点から理解できる。	2前	30	1		○	○		○	
23	○		運動学演習Ⅲ	人体の機能と運動との関係を学び、各運動に必要な生理的機能の特徴を実習を通して理解できる。	2後	30	1		○	○		○	
24	○		人間発達学	人間が生涯にわたり発達する力を持っていることを学び、人間の生涯にわたる身体的、精神的、社会的な発達について理解できる。	1前	15	1	○		○		○	
25	○		臨床心理学	臨床現場で使用される各種心理検査（知能検査、人格検査、神経心理学的検査）や心理療法について理解できる。	1後	15	1	○		○		○	
26	○		病理学	代表的な疾病の原因とそれに対する生体の反応、疾病の経過・転帰等について理解できる。	1後	15	1	○		○		○	
27	○		一般臨床医学	臨床現場で必要とされる栄養、薬理、救急救命、予防の基礎について理解できる。また、病院で多くみられる疾患の概念について理解できる。	1後	30	2	○		○		○	○

28	○		老年医学	「若い」とは何か、老年期にみられる身体機能・精神機能の特徴、老年期に起こりやすい疾患等について理解できる。	2後	15	1	○			○			○
29	○		精神医学	統合失調症・気分障害(躁うつ病)等を代表とする精神科疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○
30	○		内科学	代表的な内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○
31	○		整形外科学	代表的な整形外科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○
32	○		神経内科学	代表的な神経内科系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	30	1		○		○			○
33	○		臨床医学概論	整形外科学、神経内科学の疾患の基礎となる症候学について理解できる。	1後	30	2	○			○			○
34	○		小児科学	代表的な小児系の疾患、特に作業療法の対象者に多くみられる疾患の原因、診断、治療等について理解できる。	2前	15	1	○			○			○
35	○		画像診断学	脳の疾患や整形外科疾患において必要となるCTやMRI画像の読影のため、画像診断の基本的知識を身につける。	2後	15	1	○			○			○
36	○		リハビリテーション医学	リハビリテーションの対象となる代表的な疾患や障害に対するリハビリテーション医学の基本的なアプローチの方法を理解できる。	1後	15	1	○			○			○
37	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や、理念、概念、対象、関連職種等について理解できる。	1後	15	1	○			○			○
38	○		チーム医療論	医療機関等におけるチーム(多職種連携)のあり方を学び、医療専門職としての自覚とチームの一員としてのあり方を身につける。	1前	15	1	○			○			○
39	○		ケアマネジメント論	自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムについて学び、ケアマネジメントの実際について理解できる。	2後	15	1	○			○			○
40	○		社会福祉論	社会福祉の現状を学び、リハビリテーションに関連する法律や制度について理解できる。	2前	15	1	○			○			○
41	○		作業療法概論	作業療法の起源と歴史、定義や対象・分野、職業倫理、作業療法実施の流れ等、作業療法の全体を理解できる。	1前	30	2	○			○			○
42	○		基礎作業学	作業療法の治療手段である作業の持つ意味や作業の捉え方に関する変遷を学び、作業活動と人との関わりや諸機能への影響等を理解できる。	2前	15	1	○			○			○

43	○		作業学実習Ⅰ	さまざまな作業活動を通して、その心身に及ぼす影響や治療的な効果・作業療法現場での使用方法について理解できる。	1前	45	1				○		○	○		
44	○		作業学実習Ⅱ	さまざまな作業活動を通して、その心身に及ぼす影響や治療的な効果・作業療法現場での使用方法について理解できる。	1後	45	1				○		○	○		
45	○		研究法入門	研究法を学ぶための基礎である統計処理の基本的な知識を身につけ、その方法を理解できる。	2後	15	1	○			○				○	
46	○		作業療法研究法	実践のための科学的基盤を確立する上で重要である研究について、その基本的な考え方や方法について理解できる。また、研究テーマを選択し、研究の基本的な方法を実践することができる。	3前	30	1		○		○		○			
47	○		作業療法管理学	作業療法において重要となる情報管理について、実際の医療現場におけるその基礎的な事項を学び、理解できる。	2後	30	2	○			○		○			
48	○		作業療法評価学	作業療法における評価の基本的な考え方やその種類、手順、具体的な検査測定法について理解できる。	1前	15	1	○			○		○			
49	○		作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	1前	45	1				○		○	○		
50	○		作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	1後	45	1				○		○	○		
51	○		作業療法評価学実習Ⅲ	作業療法における代表的な検査測定法を理解し、実際に経験することにより身につける。	2前	45	1				○		○	○		
52	○		作業療法評価学実習Ⅳ	作業療法における代表的な疾患に対する一連の評価手順（医用画像の評価を含む）を実際に経験することにより身につける。	2後	45	1				○		○	○		
53	○		身体障害治療学	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	2	○			○		○			
54	○		身体障害治療学演習Ⅰ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	1		○		○				○	
55	○		身体障害治療学演習Ⅱ	身体障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。呼吸器疾患の作業療法に関連して、喀痰等の吸引の方法について学び、人形を使って喀痰吸引を実施できる。	2後	30	1		○		○				○	
56	○		高次脳機能障害治療学	代表的な高次脳機能障害に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	30	2	○			○		○			
57	○		高次脳機能障害治療学演習	代表的な高次脳機能障害に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について演習を通して理解できる。	2後	30	1		○		○		○			

58	○		精神障害治療学	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	30	2	○			○	○		
59	○		精神障害治療学演習	精神障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について演習を通して理解できる。	2後	30	1		○		○	○		
60	○		発達障害治療学	発達障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2前	15	1	○			○		○	
61	○		発達障害治療学演習	発達障害領域における代表的な疾患に関する知識・評価方法・介入方法について、演習を通して理解できる。	2後	30	1	○			○		○	
62	○		職業関連活動学	障害を持つ人が職業につくにあたっての職業評価・援助の方法や職業支援に必要な知識を身につける。	2後	15	1	○			○		○	○
63	○		老年期障害治療学	老年期における特徴等の知識を基礎として老年期に多い疾患に関する知識・評価方法・介入方法を学び、その作業療法について理解できる。	2後	15	1	○			○		○	
64	○		義肢装具学演習	義肢や装具の構造と機能および使用目的・方法、自助具の使用目的や作製方法について演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○		○	
65	○		福祉住環境論演習	住宅改修や福祉用具、自助具の基礎知識、それぞれを用いた援助の方法等について理解できる。	2前	30	1		○		○		○	
66	○		日常生活活動学	日常生活活動の評価方法や指導方法を学び、基礎的な知識や実技の方法について理解できる。	1後	15	1	○			○		○	
67	○		日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活活動の評価方法や指導方法についての基礎的な知識や実技について演習を通して身につける。	2前	30	1		○		○		○	
68	○		日常生活活動学演習Ⅱ	疾患別の実技の方法や指導方法等を学び、演習を通して身につける。 生活行為向上マネジメント（MTDLP）の基礎を演習を通して身につける。	2後	30	1		○		○		○	
69	○		作業療法特論	実際の臨床現場で行われている作業療法を、現場で活躍する作業療法士の教授により、演習を通して理解できる。	3前	30	1		○		○		○	
70	○		地域作業療法学	地域作業療法の必要性と現状、その実際を学び、具体的な展開方法について理解できる。	2前	30	2	○			○		○	○
71	○		地域作業療法学実習Ⅰ	地域の臨床現場での体験実習を通して、一般的に必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	1後	45	1			○		○	○	○
72	○		地域作業療法学実習Ⅱ	地域の臨床現場での体験実習を通して、作業療法士として必要とされるコミュニケーション能力を身につける。	2前	45	1			○		○	○	

73	○		見学実習	臨床現場で作業療法士が実際に働く場を見学することで、作業療法に対する職業理解を深め、作業療法士になるためのモチベーションを維持できる。	1前	45	1			○	○	○	○
74	○		地域実習	デイケアや訪問作業療法を実施している事業所で作業療法士が実際に働く場を見学することで、地域で必要とされる作業療法に対する職業理解を深める	2前	45	1			○	○	○	○
75	○		評価実習	作業療法における初期評価の一連の流れ（情報収集、検査測定の実施、評価のまとめ、作業療法計画の作成等）を臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	2後	180	4			○	○	○	○
76	○		総合臨床実習Ⅰ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3前	405	9			○	○	○	○
77	○		総合臨床実習Ⅱ	作業療法における初期評価から治療、最終評価までの一連の流れを臨床現場での実習を通して体験し、身につける。	3前	405	9			○	○	○	○
78	○		作業療法総合演習Ⅰ	1年で学ぶ基礎医学の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	1後	30	1			○	○	○	
79	○		作業療法総合演習Ⅱ	1年で学ぶ基礎医学の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	2前	30	1			○	○	○	
80	○		作業療法総合演習Ⅲ	1・2年で学ぶ専門基礎分野の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	2後	30	1			○	○	○	
81	○		作業療法総合演習Ⅳ	1・2年で学ぶ専門基礎分野の知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3前	30	1			○	○	○	
82	○		作業療法総合演習Ⅴ	1～3年で学ぶ専門基礎分野の知識や作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3後	30	1			○	○	○	
83	○		作業療法総合演習Ⅵ	1～3年で学ぶ専門基礎分野の知識を基礎とした作業療法の専門的な知識について、問題演習、確認テスト等を通して総合的に身につける。	3後	60	2			○	○	○	
合計						83科目		3375単位時間(121単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校所定の課程を修了し、出席日数をみだし、試験に合格すること。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。